

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1. 学則変更(収容定員変更)の内容

新潟大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 20 年度に新医師確保総合対策に基づき、一般入試に 5 名、推薦入試に「地域枠」（新潟県内の高等学校出身で、新潟県内で将来の医療を担うという強い意志を有する者）5 名を増員した。また、平成 21 年度に地域枠を拡大し「地域枠 A」（平成 20 年度における地域枠）と緊急医師確保対策に基づく「地域枠 B」（地域枠 A の出願要件に加え、新潟県が設定する修学資金を受給するとともに、県が指定する医療機関に一定期間勤務することを確約できる者）5 名を増員した。

さらに、平成 22 年度に経済財政改革の基本方針 2009 に基づき、「地域枠 B」を 5 名増員した。また、平成 25 年度に新成長戦略に基づき、「地域枠 B」を 2 名増員した。

平成 29 年度で終了した新医師確保総合対策及び緊急医師確保対策に基づく 15 名分について、平成 30 年度に新成長戦略に基づき再度の定員増を行い、令和元年度の入学定員は 122 名（一般入試 105 名、推薦入試「地域枠 A」5 名、「地域枠 B」12 名）、2 年次編入学 5 名となった。

令和元年度を期限とする 22 名の入学定員について、令和 3 年度までの期限を付した再度の入学定員増を行ったところであるが、令和 3 年度は更に地域枠 5 名増と合わせ、令和 3 年度の入学定員を令和 3 年度限定の定員増を行わなかった場合の 122 名から 127 名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても令和 3 年度までの期限を付した臨時の入学定員増を踏まえ、令和 3 年度限定の定員増を行わなかった場合の 647 名から 652 名に変更する。

2. 学則変更(収容定員変更)の必要性

近年の急速に進行する少子高齢化などに伴い、医療分野におけるニーズは日々、高度化・多様化している。新潟県は、県土が広大なうね過疎や豪雪等の地理的特性を有することに加え、医師の都市部への集中に伴う地域的な偏在もあり、医師不足が深刻な問題となっている。

新潟県の三次医療圏別医師偏在指標は 172.7（全国 239.8）と全国最下位【資料 1】であり、また、将来時点（2036 年時点）において、新潟県は 1,500 人以上の医師が不足し、医師養成数は年間 100 人以上が不足するとされている。

新潟大学医学部医学科では、教育目標の一つに「地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成」を掲げており、地域の医師不足に係る切実な要請に応え、新潟県内の将来の医療を担うという強い意志をもった県内出身者を対象とした「地域枠」による入学定員増を行い、地域における医師の確保ならびに地域医療を担う医師の養成を推進し、深刻化著しい医師不足の解消に貢献するものである。

3. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(1) 入学定員変更に係る入学者選抜

本増員は、新潟大学医学部医学科推薦入試「地域枠」によるものとし、出願要件は、新潟県を含む全国の高等学校出身で、新潟県内で将来の医療を担うという強い意志を有し、新潟県が設定する修学資金を受給するとともに、新潟県が指定する医療機関に一定期間勤務することを確約できる者とする。

また、「一般枠」と「地域枠」のそれぞれに募集人員を設けることにより入学試験の段階で地域枠希望者を区別して選抜を行うこととする。

(2) 教育課程の内容

令和3年度限定の定員増を行うものであるため、教育課程等については特段の変更はなく、引き続き、既設プログラムを基礎として「地域医療」に関する授業及び実習を実施し、6年間を通じて継続的かつ体系的に教育することにより、一層の教育効果の実現を図ることとする。

また、「医学科における専門教育に関する授業科目履修方法」【資料2】のとおり、医学部医学科専門科目に関する授業科目は全て必修としており、「地域枠」で入学する学生とそれ以外の学生との区別は行っていない。

なお、「地域医療」に関する授業科目は次のとおりである。

学年	授業科目名	科目の概要
1年次	早期医学体験実習(EME)	医学学習の開始にあたり、医療の現場に接し、社会における医学の役割を学ぶ。
4年次	臨床実習ⅠA	臨床実習ⅠA, B, Cの開講期間に、各臨床科目をローテーションして臨床実習を行う。実際の医療に接する場で、全人的医療を実践するために必要な各臨床科目の基本的知識、問題解決能力、技能および態度を修得する。そのうち「地域医療」については、遠隔地(魚沼地域)で実習を行う。
5年次	臨床実習ⅠB	
5年次	臨床実習ⅠC	
5年次	臨床実習ⅡA	臨床実習ⅡA, Bの開講期間に、4週間を1クールとし、6クール(新潟大学医歯学総合病院3クール、医師不足地域にある村上総合病院、魚沼基幹病院、県立十日町病院、佐渡総合病院などを含む学外病院3クール)を各臨床科目で臨床実習を行う。主として、患者と接する医療現場において、医師として全人的医療を実践するために必要な、患者、医師、他職種医療スタッフとのコミュニケーション能力、身体診察法、臨床推論、問題解決、治療計画、プレゼンテーションなどの基本的臨床技能と態度を修得する。
6年次	臨床実習ⅡB	

4. その他、地域の医師確保の観点からの取組

○ 新潟県地域医療支援センターとの連携

新潟県と連携し、本学医学部医学科内に「新潟県地域医療支援センター医学科分室」を設置し、専任の教員、事務職員を配置しキャリア形成支援、地域医療実習の企画・運営等を行っている。

○ 新潟地域医療学講座(寄附講座)との連携

卒前教育から専門研修までを切れ目無く支援することによる地域医療に従事する医師の育成、地域医療の向上と県民の健康増進に寄与すること等を目的として設置された「新潟地域医療学講座」(寄附講座)と連携することにより、専任の教員が地域医療の現場で年間を通して地域医療

学の講義や地域臨床実習の指導を行っている。

○ 新潟大学医学部医学科体験講座の開催

通常のオープンキャンパスに加え、新潟県教育委員会と連携し、新潟県内の高校に働きかけ、医学科への進学を真剣に考えている高校生に特化した「新潟大学医学部医学科体験講座」を開催し、地域枠への進学も含めた医学科への進学を促し、積極的な学生確保に努めている。

○ 新潟県地域医療夏季実習の実施

新潟県では昭和60年頃より夏季休暇の間に新潟県出身の自治医科大学生を対象とした新潟県地域医療夏季実習を継続して開催している。以降、新潟県が独自に実施している県費修学生や新潟大学地域枠学生を加え、平成30年度からは新潟県の地域医療に関心を持つすべての医学生を対象としている。これは、地域医療の現状や重要性について学習し学生同士が交流する好機となっており、卒後新潟県内で共に活動することになる仲間作りや共通意識の醸成に寄与している。

○ キャリアパス説明会の開催

新潟県と連携し、地域枠医学生等を対象にキャリアパス説明会を開催している。新潟県からの説明はもちろん、各科の教授・総括医長から地域枠卒業生に特化したプログラムの説明や、地域枠卒業生に対する考え方などを話してもらっている。また、双方向で意見交換することにより、より良いキャリアパスを提示できるよう努めている。

また、地域枠により入学した学生以外の学生も含む全学生を対象に、学年別にキャリアパス説明会を開催しており、学生が自身のキャリアについて考える機会を設けている。

○ 新医学セミナー等の開催

新潟県医師会や新潟県福祉保健部と連携し、地域枠学生のみならず、新潟県の医療に関心を持つすべての医学生を対象に「新潟で医療を学ぶセミナー」（新医学セミナー）を開催している。

「地域医療」をはじめ、「災害医療」や「小児医療」「救急医療」等をテーマに講演会やワークショップを開催している。

都道府県の医師確保計画に用いられている医師偏在指標

(都道府県別)

都道府県コード	都道府県	医師偏在指標
00	全国	239.8
01	北海道	224.7
02	青森県	173.6
03	岩手県	172.7
04	宮城県	234.9
05	秋田県	186.3
06	山形県	191.8
07	福島県	179.5
08	茨城県	180.3
09	栃木県	215.3
10	群馬県	210.9
11	埼玉県	177.1
12	千葉県	197.3
13	東京都	332.8
14	神奈川県	230.9
15	新潟県	172.7
16	富山県	220.9
17	石川県	272.2
18	福井県	233.7
19	山梨県	224.9
20	長野県	202.5
21	岐阜県	206.6
22	静岡県	194.5
23	愛知県	224.9

都道府県コード	都道府県	医師偏在指標
24	三重県	211.2
25	滋賀県	244.8
26	京都府	314.4
27	大阪府	275.2
28	兵庫県	244.4
29	奈良県	242.3
30	和歌山県	260.3
31	鳥取県	256.0
32	島根県	238.7
33	岡山県	283.2
34	広島県	241.4
35	山口県	216.2
36	徳島県	272.2
37	香川県	251.9
38	愛媛県	233.1
39	高知県	256.4
40	福岡県	300.1
41	佐賀県	259.7
42	長崎県	263.7
43	熊本県	255.5
44	大分県	242.8
45	宮崎県	210.4
46	鹿児島県	234.1
47	沖縄県	276.0

※都道府県の医師確保計画の策定スケジュールを踏まえ、各都道府県の医師偏在指標が確定する前の段階において、その時点の指標に基づき、指標の値を最も大きいものから並べて1/3の閾値を244.8、指標の値を最も小さいものから並べて1/3の閾値を215.3と設定した。そのため、上記の「都道府県の医師確保計画に用いられている医師偏在指標」においては、当該閾値に該当する都道府県数が、必ずしも総数の1/3と一致しない場合がある。

(医師偏在指標について)

医師偏在指標は、医師偏在対策の推進において活用されるものであるが、指標の算定に当たっては、一定の仮定が必要であり、また、入手できるデータの限界などにより指標の算定式に必ずしも全ての医師偏在の状況を表しうる要素を盛り込んでいるものではない。

このため、医師偏在指標の活用にあたっては、医師の絶対的な充足状況を示すものではなく、あくまでも相対的な偏在の状況を表すものであるという性質を十分に理解した上で、数値を絶対的な基準として取り扱うことや機械的な運用を行うことのないよう十分に留意したうえで、活用する必要がある。

医学科における専門教育に関する授業科目履修方法

(新潟大学医学部規程 別表第3)

授業科目名	必修・選択の別	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		卒業要件単位	備考
		第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期		
医学入門	必修		2											2	
早期医学体験実習(EME)	必修	1												1	
発生学	必修				1									1	
人体の構造と機能 I	生理学	必修			3									3	
	解剖総論	必修			2									2	
	肉眼解剖学	必修			5.5									5.5	
	組織学総論	必修			2									2	
人体の構造と機能 II	神経の構造	必修				2								2	
	生理学	必修				3								3	
	生理学実習	必修				2								2	
	組織学各論	必修				4								4	
生体内物質と代謝	必修				4									4	
病気と遺伝学	必修					1								1	
分子生物学	必修					2.5								2.5	
基礎薬理	必修						3.5							3.5	
病理総論	必修						3							3	
生体防御と感染	細菌学	必修					3							3	
	免疫学	必修					2.5							2.5	
	ウイルス学	必修					2							2	
	医動物学	必修					1							1	
	総合	必修					1.5							1.5	
疫学	必修					1.5								1.5	
医学情報学(基礎)	必修					1.5								1.5	
医学情報学(応用)	必修							0.5						0.5	
環境医学	必修						1.5							1.5	
法医学	必修							2						2	
公衆衛生学	必修							2						2	
医学英語 I	必修					0.5								0.5	
医学英語 II	必修								0.5					0.5	
基礎臨床統合 I	必修				1									1	
基礎臨床統合 II	必修					1								1	
統合臨床医学	必修						4							4	
臨床実習入門	CBT	必修							2					2	
	OSCE	必修							4					4	
臓器別講義・演習 I	必修							15						15	
臓器別講義・演習 II	必修								18					18	
臓器別講義・演習 III	必修									7				7	
臨床実習 I A	必修									7				7	
臨床実習 I B	必修										15			15	
臨床実習 I C	必修											15		15	
臨床実習 II A	必修											7		7	
臨床実習 II B	必修												15	15	
臨床医学講義(集中)	必修												7	7	
医学研究実習	必修							7						7	
年次(前期・後期)別修得単位数		1	2	17.5	20	22	22	22.5	20.5	15	22	15	7	186.5	